

技の守り人 匠会通信

越後与板打刃物匠会

No.10 11月号

鍛冶の原点を発信 「ふいごまつり」

11月の8日に一番近い日曜日、というのがこれまでのふいごまつりの日程でしたが、ことしは「いきいきフェスティバル」との競合を避けて、11月4日に開催されました。今回は初めて観光協会「まちの駅よいた」も出店し、もちろん匠会も協賛して実施。打刃物にかかわる全ての職人の祝祭になることを目指し、今後も与板の特色ある秋の一大イベントになるといいなと思います。



最近マスコミに取り上げられる機会も増え、与板打刃物は外からの注目度が増してきています。

4日ふいごまつり当日も、数社のメディアが取材に駆けつけ、白装束で行う昔ながらの鍛錬儀式を、興味深そうにカメラに収めていました。



他にまねのできない与板鍛冶ならではのパフォーマンスに、観衆もクギづけです。



「越後与板は
金物どころ
鋸の音から
鋸の音から
夜が明ける」
……

与板囃子にも唄われた光景をほうつとさせる気魄の鍛錬。

12月には8日9日の二日間、東京上野公園で開催の長岡観光PRイベントにおいて、与板鍛冶の技と心意気を実演してきます。

打刃物を継承する次世代に エールを！

河政刃物で修業する安達誠人君(18)へのマスコミ取材が相次いでいます。刃物づくりの道をめざして早8ヶ月。遅刻もせず口数も少なく、与えられたことに真面目に取り組む姿には「職人」になる素質も感じます。しかし、これからは安達君にとっては越えていかなければならない難関が待ち受ける行程にさしかかる時期と言えます。

河政さんのお弟子さんというより、与板打刃物の伝統を受け継ぐ貴重な人材として、彼を一人前に育成するための「チームワーク」づくりを匠会の中で話し合っているものかと考えたりもしています。

各会員の工房の見学実習、実技指導などご協力をお願いします。

